

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2024年5・6・7月号

編集発行人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー

京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第634号

イスラエルによるガザへの攻撃が始まった直後、あるキリスト者の団体が、「イスラエルの側に立つ」との声明を発表しています。ほかにも教会関係者からイスラエル擁護の発言を聞きました。イスラエルは神が選ばれた民だというのが理由のようです。

ロシアがウクライナに攻撃を始めてまもなく、ウクライナ支援の声が大きく上がりました。その時、武器購入のための支援をとの声を、身近な教会関係者から聞きました。

平和を祈り求めるキリスト教の世界で、戦争を認める発言が即座に出てきたのです。

ウクライナ支援について、わたしには当初から気になることがひとつありました。国旗に対する考え方や気持ちは国によって違いますが、支援の印として、青と黄のウクライナ国旗の色が支援の象徴に用いられることに、わたしは違和感を持ったのです。

爆撃によって命の危機にさらされ、国内外に避難を余儀なくされている人たちの支援したいと思います。しかしそれがある国を支援することになると、そうではないと思

うからです。

それにもかかわらず、戦争の一方の国の肩を持ち、国と国の争いの片方の国の側についてしまつてはいないでしょうか。停戦を願い、戦争の終結を願っているのに、いつのまにか、片方の側の味方をし、片方の側の負けを願つてしまつています。

今年の1月17日、聖書学

御国が来ますように



財団評議員

横野 朝彦

者の太田道子さんが九一歳で亡くなられました。太田さんは、1955年以来パレスチナ難民キャンプを民生面で支援するプロジェクトを実施し、NGO「地に平和」の代表として働かれました。パレスチナの土地に住み、そこで土地を奪われ、命を奪われている人と一緒に暮らし、怒りや嘆きを共にしておられました。

の、命奪われ、命の危機にさらされ、傷つき、家を失い、生活や権利の回復を祈り願うことではないと思います。それゆえ、双方の言いつつも、より弱くされている人に心を寄せる偏りがそこにはあります。

イエスが教えられた「主の祈り」において、「御国が来ますように。御心が天におこなわれるように、地にもおこなわれますように」と祈られます。それは神の御心がこの地上に実現しますようにという祈りです。

しかし太田さんは、パレスチナ問題に関わるには、イスラエルを敵として憎めば良いのではないと言われます。自分分がしているのは、双方の人間が人間らしい生き方、在り方を回復させようとする運動だと言っておられました。

とも大切な考えだと思いが、けれども、どちらの勝利も、どちらの敗北も願わないなどと言ったところで、まるで戦争が無いかのような、それで傷つけている人がいないかのような態度でいることはできません。太田さんは、双方の人間が人間らしくと言いつつ、はつきりとパレスチナの人と共に生きる道を選ばれました。

(2月23-24日に開催された当財団「研修と懇談の会」礼拝でのメッセージ要約。)

(日本基督教団牧師)

う公開講演会を実施する。

- 体験プログラムとして、コロナ以前に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。
- 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2024 年度も各神学校の賛助を得て、第 14 回神学生交流プログラムを実施する。リモートでの開催か、対面での開催かについては現在検討中。

フォーラム事業			
関東フォーラム 今日的課題 I	6 回	連続講座(対面プログラム) 「LGBTQ+と教会 壁を造らない共同体をめざして」 講師・中村吉基(日本キリスト教団代々木上原教会 牧師 宗教とLGBT ネットワーク代表)	第1回6月11日(火) 第2回7月9日(火) 第3回9月10日(火) 第4回10月8日(火) 第5回11月12日(火) 第6回12月10日(火)
聖書を読む 講座 I	全10回	「LGBTQ+とキリスト教性との正義に向けての聖書の読み直し」 講師・山口里子(聖書学者) 全面リモートで実施 (早稲田奉仕園と共催)	第1回4月9日(火) 第2回5月14日(火) 第3回6月11日(火) 第4回7月9日(火) 第5回9月10日(火) 第6回10月8日(火) 第7回11月12日(火) 第8回12月10日(火) 第9回1月14日(火) 第10回2月18日(火)
関東フォーラム 宗教対話 I	10 回	読書会「キリスト教と文学」 講師・柴崎嶺(文芸評論家) ミハエル・エンデ『モモ』 倉田百三『出家とその弟子』 ドストエフスキー『罪と罰』(1,2) 有島武郎『カインの末裔』他 ラーゲル『キリスト伝説集』 O・ヘンリー『最後の葉』他 太宰治『カントン』他 カズオ・イシグロ『日の名残』 原田マハ『奇跡の人』 (早稲田奉仕園と共催)	第1回4月16日(火) 第2回5月21日(火) 第3回6月18日(火) 第4回7月16日(火) 第5回9月17日(火) 第6回10月15日(火) 第7回11月19日(火) 第8回1月21日(火) 第9回2月18日(火) 第10回3月18日(火)
関東フォーラム 宗教対話 II	1 回	柏木義円公開講演会 講師未定 全面リモートで実施 (共催: 柏木義円研究会)	11月16日(土)
話し方ワー クショップ	10 回	「礼拝の言葉を豊かに」 話し方ワークショップ(ステップ・アップ講座、初心者も可) 講師・友野富美子 会場 日本キリスト教団東中野教会 対面プログラム	第1回5月17日(金) 第2回6月21日(金) 第3回7月19日(金) 第4回9月20日(金) 第5回10月18日(金) 第6回11月15日(金) 第7回12月20日(金) 第8回1月17日(金) 第9回2月21日(金) 第10回3月21日(金)
神学生交流 プログラム		第14回神学生交流プログラム 校長 神田健次(関西学院大学名誉教授) 講師 未定	2025年3月に2泊3日で開催予定 開催場所未定

III 関西セミナーハウス活動センター2024年度事業計画

平和、正義、いのちが侵害されている社会の現状を克服し、いのちの輝きを共有する世界の実現を目指す、はなしあい活動を展開する。

問題の本質を見抜き、根源的問題提起をできる発題者を立て、対論を深め、混迷における光を探索する。

戦争を克服し、平和な世界を実現する道を様々な角度から探り、その成果を出版して、市民と共有する。

原子力発電、再生可能エネルギー、環境汚染、貧困、差別などの問題と向き合い、克服する道を探る。

これらの対話集会は、関西セミナーハウスで、講師と参加者が直接出会い、時間をかけて語り合い、考えを深め合うと共に、オンラインにより遠隔の人も対話に参加できるようにする。

対話集会の発題講演は録画し、YouTube ライブラリーに収め、後日ホームページ上で申し込むことにより、その内容を共有することが出来るようにする。それにより、当活動センターの集会在、広く、教会員、市民の間で共有され、やがてその中から、活動センターでの集会に直接参加する人が出てくることを期待する。

そのためにホームページ上で、これらの集会に繋がりがやすい仕掛けを工夫する。

これらのプログラムを財政的に支援するため、いつでも容易に寄付できる方法をホームページ上に設け、年間を通し、これらの企画が赤字を生まないように工夫する。

これら集会の成果は、適宜機関紙「はなしあい」誌上で報告し、支持者を広げるよう努める。

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回 シリーズ 「戦争と 平和」	預言書に学ぶ非戦のこころ—第 2 イザヤを中心に 講師 石川立(同志社大学名誉 教授)	4月13日 (土)
	第2回 シリーズ 「戦争と 平和」	「戦争の時代」にしないために —沖縄対話プロジェクトの経験から 講師 岡本厚(前岩波書店社長・ 元雑誌「世界」編集長)	5月25 日(土)
	第3回 シリーズ 「戦争と 平和」	中東の平和を考える アメリカはなぜイランと対立するのか 講師 中西久枝(同志社大学グロー バルスタディーズ研究科教授)	6月1日 (土)
	第4回 シリーズ 「戦争と 平和」	“地雷”ではなく、“花”を —報復ではなく、いのちの連鎖へ 講師 松浦悟郎(カトリック名古屋 教区司教)	7月27日 (土)
	第5回	ケイト・ラウースが提唱している「ド ーナツ経済学が世界を救う」が、日本で どのように実践されているのか(仮) 講師 広井良典(京都大学 人と社 会の未来研究院教授)	2025年2 月15日 (土)
	第6回	エネルギーを考える 「能登半島地震が告げる原子力災 害への警鐘」(仮) 講師 アイリーン 美緒子 スミス (環境市民団体グリーンアクション代表) 「いのちを育む風力と太陽光発電」(仮) 講師 牛山 泉(足利大学観音 名誉教授)	2025年 3月30日 (日)~31日 (月)
修学院フォーラム 福祉	第1回	夜回りの活動を通して見えてくるもの(仮) 講師 桜井 希(同志社中学校高等学校)	10月12日 (土)
	第2回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 交渉中 京都 YWCA と共催	12月または 2025年3 月予定
修学院フォーラム いのち	第1回	咸錫憲(ハム・ソクホン)のシアル (民衆)思想—「韓国のガンジー」が 問いかける非暴力主義 講師 朴賢淑(パク・ヒョンス)(大阪 女学院大学・短期大学准教授)	8月31日 (土)
	第2回	旧約聖書が現代に語りかけるもの (仮) 講師 月本昭男(古代オリエント博 物館館長)	9月15日 (日)~16日 (月)

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 2024年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2024年度の実業計画を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

本法人の使命を果たすために、2024年度において以下の基本方針を掲げ、新たな活動や事業方を検討し安定した財団運営を推進する。

1. 財団事業の展開

1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話(はなしあい)を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2) ① 関西セミナーハウスの事業は、コロナ禍後の社会状況を踏まえつつ、事業展開の可能性を模索し、新たな運営形態に取り組む。

② アカデミー運動における事業活動は、研修・セミナーは積極的に集合形式を計画するとともに、リモート形式についても運営方法の充実をはかる。

3) 東・西施設の適切な運営管理を行い、法人運営の健全化を進める。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。

② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とし、且つ事業費、寄付金収入も含め、各活動センター全体としても収支バランスの取れた運営を目指す。

③ 講師ならびに参加者同士の対話を中心に進めつつ、オンライン会議においてもより充実した運営方法に取り組む。

④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発と効果的な広報に取り組む。

⑤ 得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を検討し実施する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

① 新体制を構築し、安定した運営に取り組む。

② 一般利用者、企業等に対して団体客を中心とした施設の利用を促進し、その収益の一部を公益活動に資する方策を組み込む。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務用物件の一部を貸与し、その収益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。

なお、借主及び管理組合との交渉に関しては、財団本部が責任をもって行う。

3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告するとともに、より効果的な広報を検討し取り組む。

具体的には広報先やツールなどについて、効果的に且つ効率的に行う方策を検討し実施する。このことにより本法人の使命や活動をより広く知らしめ、理解者、賛同者ならびに事業や活動の参加者、利用者の増加につなげる。

東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページやSNS等によって積極的な情報発信を継続する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の仕組みや広報について見直し、拡充に取り組む。

5. 本法人が使命に基づき健全に運営を継続するために、各事業を推進する人財を育成・確保する。

また、役員・委員の人財の確保と各事務局機能強化と連携に取り組む。

II 関東活動センター2024年度事業計画

2024年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. 関東活動センターの事務局態勢が新しく変ることに伴い、浦上充運営委員長、古賀博所長代行のもとに、徐々に新機軸を打ち出していくこととしたい。

2. Covid-19の感染がなお続く中で、注意しながらも対面式の講座やプログラムを少しずつ増やしていきたい。

3. 「今日的課題」Iとして、「LGBTQと教会」というテーマで、中村吉基講師の連続講座を実施する。このプログラムは、対面式で実施される。興味本位、あるいは無責任な参加を制限するためである。

4. 「聖書を読む講座」Iとして、この間継続して聖書講座を担当していただいた山口里子さんを講師として、『いのちの糧の分かち合い』(新教出版社)を共に読み、話し合うプログラムを実施する。このプログラムは、海外、及び全国各地からの多様な参加者に呼びかけるために、全面リモートで行なう。

5. 「宗教対話」Iとして、昨年度に引き続き、少人数の読書会「キリスト教と文学」(講師・柴崎聰)を実施する。このプログラムは対面式で行なう。

6. 「宗教対話」IIは、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問

(2 頁より続く)

修学院フォーラム いのち	第3回	聖書をエコロジーの視点で読む フォローアップ(仮) 講師 大澤香(神戸女学院大学文学部准教授)	2025 年 1 月 11 日 (土)
	第4回	歴史を変えた非暴力主義:再洗礼 派からキング牧師まで 講師 踊共二(武蔵大学リベラルアーツ アドサイエンス教育センター教授)	2025 年 1 月 25 日 (土)
	第5回	スピリチュアルケアを考える(仮) 講師 藤井理恵(元淀川キリスト教 病院チャプレン)	2025 年 2 月 22 日 (土)
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育 セミナー	第1回	開発教育入門セミナー ～SDGsを自分ごと～ 「となりのムスリム・ムスリマ」 「わたしたちのパレスチナ問題」 講師 開発教育研究会 共催(公財)京都市国際交流協会	6 月 23 日 (日)
	第2回	パレスチナの平和をつくる ～今起きていることを植民地主義 の視点から考えてみよう～ 講師 岡真理(早稲田大学文学 学術院文化構想学部教授)	7月6日(土) ～7日(日)
	第3回	市民(わたし)から始める ～難民と一緒に暮らせる街をめざして～ 講師 加藤良太(市民社会スペース NGO アクションネットワーク(NANCIS))	9月7日(土) ～8日(日)
	第4回	市民(わたし)から始める ～難民と一緒に暮らせる街をめざして～ 講師 田中恵子(NPO 法人 RAFIQ (難民と共生のネットワーク))	10月5日(土) ～6日(日)
	第5回	地球と食の未来を考える Part2 ～おにぎりや NISA から考える経済 「金融化」のカタクリ～ 講師 平賀緑(京都橋大学経済学部准教授)	11 月 30 日 (土)～12 月 1 日(日)
	第6回	「植民地支配責任」を考える ～朝鮮学校の歴史と現状を学ぶことから～ 講師 板垣竜太(同志社大学社会学部教授)	12 月 21 日 (土)～22 日 (日)

IV 関西セミナーハウス 2024 年度事業計画

2024 年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りとする。

1. 運営方針

- 1) コロナによる臨時休館解除 3 年目となる本年度は従来の運営方法にとらわれず、利用者の利便性を高め、施設の魅力を再発信するなど今後の社会変化に対応した事業展開を行う。
- 2) 宿泊者および会議室利用の増加を図ることにより、収益事業として財団経営の安定化につなげる。
- 3) 関西セミナーハウス施設維持管理を目的とした寄附金の募集を継続する。
- 4) 関西セミナーハウスの運営に関する諸課題については経営委員会で検討し、運営する。

2. 予算編成上の留意点

- 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
- 2) 職員の人件費について、本部と関西セミナーハウスの従事割合により配分する。従事割合は本部事務局で検討する。

V 本部 2024 年度事業計画

1. 安定した本部事務局運営に取り組む

- ① 東・西活動センターの事務局運営支援。
- ② 運営委員会委員の合同での協議と懇談の会の実施。

2. ミッションの確認と拡充

- ① 諸外国におけるアカデミー運動を学び日本のアカデミー運動を確認する。
- ② 賛同者・関連団体との連携の可能性を模索し、発信力の強化とアカデミー認知度や理解者の拡充に努める。

3. 広報活動

機関紙「はなしあい」の新たな形態による発刊、デジタル化と財団の一体的広報について検討する。

4. 日本キリスト教会館の管理

オーナー会と協力し会館の維持管理に努め、テナント利用団体の施設利用に協力する。

5. 新たな法人運営並びに委員会運営を検討し、2025 年度役員改選ならびに各委員会、事務局体制に繋げる。

(以上)

2024 年度 収支予算書 (損益計算方式)

2024 年 4 月 1 日より 2025 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 日本キリストチャン・アカデミー

(単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[240]	[240]	[0]	
特定資産運用益	[0]	[0]	[0]	
受取会費	[750,000]	[715,000]	[35,000]	
事業収益	[112,585,392]	[86,894,838]	[25,690,554]	
受取寄付金	[2,800,000]	[2,220,000]	[580,000]	
雑収益	[159,000]	[2,200]	[156,800]	
経常収益計	116,294,632	89,832,278	26,462,354	
(2) 経常費用				
事業費	[112,332,462]	[92,034,636]	[20,297,826]	
管理費	[5,396,240]	[4,571,620]	[824,620]	
経常費用計	117,728,702	96,606,256	21,122,446	
当期経常増減額	△ 1,434,070	△ 6,773,978	5,339,908	
一般正味財産期首残高	372,994,208	379,768,186	△ 6,773,978	
一般正味財産期末残高	371,560,138	372,994,208	△ 1,434,070	
II 正味財産期末残高	371,560,138	372,994,208	△ 1,434,070	

関東活動センター

●2023年度
「第13回神学生交流プログラム」

主題「テキストとコンテキスト
—日本のキリスト教の座標と使命を求めて—」

校長・関西学院大学名誉教授 神田 健次さん

講師・同志社大学名誉教授 原 誠さん

2024年3月18日(月)〜20日(水・休)

会場：関西セミナーハウス、オンライン(Zoom)



2日目の「講演II」は、主題である「テキストとコンテキスト —日本のキリスト教の座標と使命を求めて—」について、日本のキリスト教の使命や課題をアメリカやアジアとの関係から見つめたものであり、世界情勢が刻々と変化する中であって、日本のキリスト教はどこに立っているのかを考えさせられるものであった。3日目のフィールドワークは対面のみであるため、2日目の夕刻には神田校長による「閉会礼拝」が行われた。

またすべてのプログラムの中で、対面開催の醍醐味である豊かな交わりを実現することができたのは大きな恵みであった。1日目、2日目の夜の「交流の時」には、終了時間を定めずに参加者がゆつくりと交流することができた。

今回、数年ぶりに対面での開催が叶い、オンラインを併用したものとなった。それぞれの良さを生かしながら、今後も活動を続けていきたいと願っている。詳細は、完成する報告書をもって確認していただきたい。

第13回 神学生交流プログラムが、3月18日(月)から20日(水)の日程で、オンライン(Zoom)を併用した上で関西セミナーハウスにおいて開催された。対面での開催は2018年度以来5年ぶりであり記憶を探りながら、参加者と共に作り上げていくものとなった。また、関西セミナーハウスは、新型コロナウイルスのパンデミックを経て、カメラやディスプレイ、Wi-Fiなどのオンラインセミナーの設備が充実していたため、今回は質の高い対面とオンラインのハイブリッド開催が実現した。

与えられた(内、1名はオンライン)。参加者は、西南学院大学神学部(1名)、日本聖書神学校(2名)、同志社大学神学部(2名)、関西学院大学神学部(1名)、聖潔神学校(1名)、農村伝道神学校(1名)より推薦を受けて参加された。今回の参加者は、全体的に社会経験を経た神学生が比較的多かったため、さまざまな場面で、それぞれの賜物や経験を用いて、どのようにこれからの日本のキリスト教を切り開いていくのかといったはなしあいがなされていたことが印象に残った。

1日目は、神田校長による開会礼拝に始まり、オリエンテーションでは、参加者同士が話し合っ各プログラムの司会などが決められた。この

交流プログラムでは、参加者が協力して共に作り上げていくことを大切にしている。今回は、ハイブリッド開催となったため、どの役割がオンラインでリードしやすいのかを話し合いながら役割分担がなされていった。このようにそれぞれの利点を踏まえた上で奉仕を決めていくという姿勢は、これからの教会の一つの形を感じる時でもあった。



その後、参加者のすばらしいリードによる自己紹介や神学校の紹介がなされ、豊かな交わりの時が与えられた。「講演I」は、原誠先生の神学生時代の出来事や教会での牧会生活、学校での教師生活を通して先生の生き様が語られた。

する機会も与えられた。

関西セミナーハウス活動センター

●2023年度「開発教育セミナー」第6回
「マイクロアグレッション」ってなあに？

講師 特定非営利活動法人とんだばやし
国際交流協会理事 長

北川 知子さん

2023年12月2日(土)～3日(日)
会場 関西セミナーハウス



マイクロアグレッションとは、日頃の人との関わりの中で「無意識」のうちに相手を差別したり、傷つけたりすることです。「自覚なき差別」とも訳される。今回のセミナーでは、私たちが構造的な差別を助長する当事者になっているという現状を理解し、どのように向き合うべきかについて考えた。



前提として、「人権」の本質である、「『嫌だ(NO)』と云えること」を確認した後、「今のわたしの気持ち」に注目して教材体験をした。目に見える不利によって思考停止となり、分かりにくい「不利」を「これはおかしい」とも思わず、また、当事者自身も不利な立場にいることに気づいていない場合がある。マイクロアグレッションは、その場の「ちょっとした心の傷つき」ではなく、そこにつながる「マクロ」の差別があるからこそ起こることであり、その「マクロ」の差別を理解することが重要である。お互いの感情にずれが生じた時に「なぜそのずれが生じるのか」「悪気なさの中に何があるのか」をゆっくりと話

し、考えるきっかけとすることが重要だ。

さまざまな教材体験をしながら、差別の三者関係（差別者、被差別者、共犯者）※や同調による差別の深刻化についても考えた。無意識のまま自分が同調の側につくことがないようにするために、自分や周りの人の「何かおかしい」(toyama.ac.jp)

●2023年度 修学院フォーラム「社会」第4回
「戦争と兵役を拒否した人びと」
―二つの世界大戦時の英米と日本―

講師 元立教大学コミュニティ福祉学部教授 西村 裕美さん
2023年12月2日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン



クエイカー（フレンド派）研究者である西村裕美氏は、近年、英米における良心的兵役拒否制度の形成について研究を進められ、そこにキリスト者やキリスト教会の大きな働きがあったことを明らかにされた。本講演では、両世界大戦のさなかにフレンド派議員や平和教会（フレンド派、



「いやだ」という呟きを見ることができないことがきっかけとなり、また、差別に出くわした時、咄嗟に対応するための言葉を知り、シミュレーションしておくことも大切だ。

メノナイト教会、ブレズレン教会中心）が宗教的良心から兵役拒否を主張し、政府に働きかけて法的制度としてそれを実現させ、また代替措置を政府と共同して定め、財政的に支援していった歴史が示された。さらに英米のフレンド派が戦場で行った負傷者の救助や医療、被災地の復興、食糧や衣類の支援の活動についても紹介された。これらの活動の背景には、個人の良心の自由が国家に優るとの権利意識とその伝統があることが指摘され、日本における国家総動員法への態度や非戦を唱えつ

つ兵役拒否を否定した内村鑑三らとの対比が示された。綿密な歴史叙述を通じて、信仰に基づいたキリスト者の葛藤と確固とした抵抗、命を守るための努力が明らかにされ、聴く者の心に深く響く講演であった。参加者による質疑や「はなしあい」も大変活発で、プログラム終了後、講師を囲んで1時間以上も議論が続いた。講師の深い問題意識と優れた研究の成果が、このような豊かな「はなしあい」をもたらしたと言えるだろう。今後の企画を検討するうえで、考え準備すべきことを教えられた貴重な機会であった。

2023年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名

2023年4月1日～2024年3月31日
(順不同・敬称略)

ご支援に感謝申し上げます。

財団本部
終身会員

神崎 清一
神保 正男
神保 信子
中井 博雅
小久保 正
野田 純一
島田 恒
横野 朝彦

寄付金

武藤 高司
柳井 一朗
長谷川 義紘
中井 博雅
関東活動センター
賛助会費
大鹿 康廣
只野 哲
河原田 美哉子
立原 敬一
竹中 百合子
星野 宗吾
西間木 公孝
古賀 博
全国教会婦人会連合

横野 朝彦
進藤 重光
門間 幸枝
吉田 博
上垣 勝
戒能 信生
根津 建
原 牧人
大川 芙喜子

寄付金

中村 信博
許 昌範
池内 友子
高柳 允子
竹政 志郎
増田 博
北原 和夫
匿名
小林 義彦
門間 幸枝
小林 誠治
萩原 好子
日本基督教団市川三本松
教会
日本キリスト教団経堂緑岡
教会

横浜雙葉中学高等学校
日本キリスト教団霊南坂教会
原 誠
小笠原 公子
林 秀雄
石橋 光朗
中井 博雅
西川 嗣夫

クリスマス寄付金

門間 幸枝
中井 博雅
林 秀雄
濱田 ひろみ
齊藤 潤
河原田 美哉子
水溜 千枝子
恵泉女学園中高・宗教部

藤 知佳
岡田 春美
日本基督教団千代田教会
日本キリスト教団須賀川教会
日本キリスト教団浦安教会
飯田 庸子
日本キリスト教団鹿児島
加治屋町教会

神学生交流プログラム寄付

川北 かおり
日本キリスト教団早稲田教会
只野 哲
日本基督教団玉島教会
西間木 公孝
浦上 充
松原 千里
小久保 正
関 伸子
横野 朝彦
並木 浩一
竹中 百合子
中村 信博
農村伝道神学校
門間 幸枝
原 誠
吉田 博
井口 拓人
松井 直樹
東矢 高明
桃井 明男
戒能 信生
湊 理恵
同志社大学神学部

根津 建
関西学院大学神学部後援会
友野 富美子
萩原 好子
加藤 真規子
日本聖書神学校
西川 優子
木村 拓己
学校法人西南学院キリス
ト教活動支援課

神保 正男
古賀 博
島田 恒
中井 博雅
仲程 愛美
外谷 悦夫
神田 健次
神保 信子
日本基督教団洛南教会

関西セミナーハウス

寄付金
神崎 清一
和田 舞
カプトムシまつり有志
柴田 賢司
京都桃山アシュラム
中村 信博
武山 泰子
延原 正海
八田 尚嘉
林 宗一郎
林 律
井上 康三郎
牛尾 宣夫
中村泰洋園

奈良 睦子
森口 克洋
和田 喜彦
岩崎 順子
株式会社田中工務店
浅沼 弘一
鳥井 清司
諫早 道子
全国本田労働組合連合会
脇坂 照世
金属労協第54回LSC
受講生一同
株式会社新経営サービス
株式会社三原工務店
株式会社ワンアップ・ジョブ
黒田 睦子
中井 博雅
京都文教大学臨床心理学部
名取 琢自
船坂 孝江
小久保 玲子
神保 正男
柳井 一朗
石川 公子
株式会社ピーテック
株式会社藤木工務店
京都支店
榎原 孝
自動車総連
辻 紀子
西川 淑子
武田薬品京都農園退職者
親睦会えんじゅ会
奥田 正義
鈴井 さち子
竹中 百合子
荒井 功
島田 恒
THE AIRS 菅原 直人

関西セミナーハウス活動センター

賛助会費
小笠原 純
水戸 潔
佐々木 絃児
鳥井 清司・操
上條 美代子
糸原 由美子
中村 信博
大島 偕美
橋 俣子
梅山 猛
関西青年アシュラム
平林 喜博
大島 順子
山本 俊正
川北 かおり
竹中 百合子
吉中 尚子
藤田 恭子
林 律
齊藤 洋子
多木 秀雄
木村 護郎クリストフ
堤 龍春
長塩 滋子
近藤 恵
陶村 世佳子
松岡 蓉子

Christian M. Hermansen
岩坂 二規・泰子
大谷 光真
匿名
八杉 恵
松田 光代
宮本 桂子
喜多村 やよい
間瀬 啓允
西川 淑子
島田 誠一
佐藤 友紀
山岡 義生
宇野 稔
徳田 信
松本 嘉一
木下 壽子
今川 泰彦・喜子
岡本 領子
株式会社こころ
徳丸 延子
濱田 真奈美
新宗連大阪事務所 公文 孝枝
吉田 力
桜井 希
都木 かおり
丸山 まり子
南 和子
菅 恒敏
中上 和子
友前 尚子
黒田 睦子
岡安 茂祐
白方 誠彌
高寺 幸子
日野 多栄子
日本キリスト教団伊丹教会
西岡 裕芳
西脇 洸一
奈倉 道隆

寄付金

京滋キリスト者平和の会
小野田 照代
神山 美奈子
糸原 由美子
中村 信博
梅山 猛
平林 喜博
山本 俊正
小久保 正
竹中 百合子
荒井 加代子
齊藤 洋子
姫野 真知夫
山添 みどり
延原 正海
匿名
喜多村 やよい
坪野 えり子
西川 淑子
山岡 義生
多田出 佳代子
松本 嘉一
田中 義信
君村 千代子
柳井 一朗
長谷川 義紘
武山 泰子

京都みぎわキリスト教会
伊藤 威知郎
弘茂 昭子
牛山 泉
藤田 敦子
Christian M. Hermansen
脇坂 照世
徳丸 延子
シュベネマン 偕美
三浦 正行
橋本 るつ子
野田 純一
村上 みか
西村 裕美
鳥井 清司・操
榎本 かな
杉本 尚司
認定NPO法人開発教育協会
匿名
榎本 栄次
日本基督教団室町教会

クリスマス寄付金

中村 信博
今川 泰彦
木下 壽子
多田出 佳世子
林 律
根岸 宏邦
間瀬 啓允
藤田 恭子
小久保 正
京都みぎわキリスト教会
友前 尚子
丸山 まり子
織田 雪江
武山 泰子
水戸 潔
山岡 義生
藤田 敦子
日本キリスト教会吉田教会
荒井 加代子
伊藤 正子
吉田 力
井田 光昭
古賀 暢子
菅 恒敏
齊藤 洋子
国際シャローム・キリスト教会
菅原 幸子
匿名
山添 みどり
日本キリスト教団和歌山伝道所
和田野 勢津子
浦 晴子
山本 俊正
堤 龍春
熊谷 文郎
島田 恒
日野 多栄子
松尾 光雄
在日大韓基督教京都教会
日本基督教団西が丘教会
日本基督教団世光教会
南 和子
在日大韓基督教会京都南部教会
日本基督教団平安教会
日本基督教団京都教会
日本キリスト教団草津教会

Christian M. Hermansen
岩坂 二規・泰子
大谷 光真
匿名
八杉 恵
松田 光代
宮本 桂子
喜多村 やよい
間瀬 啓允
西川 淑子
島田 誠一
佐藤 友紀
山岡 義生
宇野 稔
徳田 信
松本 嘉一
木下 壽子
今川 泰彦・喜子
岡本 領子
株式会社こころ
徳丸 延子
濱田 真奈美
新宗連大阪事務所 公文 孝枝
吉田 力
桜井 希
都木 かおり
丸山 まり子
南 和子
菅 恒敏
中上 和子
友前 尚子
黒田 睦子
岡安 茂祐
白方 誠彌
高寺 幸子
日野 多栄子
日本キリスト教団伊丹教会
西岡 裕芳
西脇 洸一
奈倉 道隆

寄付金

京滋キリスト者平和の会
小野田 照代
神山 美奈子
糸原 由美子
中村 信博
梅山 猛
平林 喜博
山本 俊正
小久保 正
竹中 百合子
荒井 加代子
齊藤 洋子
姫野 真知夫
山添 みどり
延原 正海
匿名
喜多村 やよい
坪野 えり子
西川 淑子
山岡 義生
多田出 佳代子
松本 嘉一
田中 義信
君村 千代子
柳井 一朗
長谷川 義紘
武山 泰子

プログラム案内

◆関東活動センター

■2024 年度 聖書を読む講座 I
(共催:早稲田奉仕園)
「LGBTQ+とキリスト教
『虹は私たちの間に 性と生の正義に向けて』を共に読む」
講師:山口 里子さん(聖書学者)
日時:4月~2025年2月,第2火曜
(8月休会)18:30~20:00
参加費:全10回8,000円,学生4,000円
方法:Zoomによるオンライン講座

■2024 年度 宗教対話 I
(共催:早稲田奉仕園)
読書会「キリスト教と文学」
講師:柴崎 聡さん(文芸評論家)
日時:4月~2025年3月,第3火曜
(8,12月休会)14:00~15:30
参加費:各回 1,000 円
会場:関東活動センター会議室
(キリスト教会館1階16号)

■2024 年度 話し方ワークショップ
「さらに豊かな礼拝のために
ことばを届けるトレーニング」
講師:友野富美子さん(日本キリスト
教団深川教会牧師)
日時:5月~2025年3月,第3金曜
(8月休会)18:00~19:30
参加費:各回 1,500 円
会場:日本キリスト教団東中野教会

■2024 年度 今日の課題
「LGBTQ+と教会
壁を造らない共同体をめざして」
講師:中村吉基さん(宗教とLGBT

ネットワーク代表)
日時:6月~12月,第2火曜(8月
休会)15:00~16:30
参加費:各回 2,000 円
会場:関東活動センター会議室
(キリスト教会館1階16号)

◆関西セミナーハウス活動センター
■2024 年度修学院フォーラム「社会」
第2回「『戦争の時代』にしないために
—沖縄対話プロジェクトの経験から」
シリーズ「戦争と平和」

講師:岡本 厚さん(前岩波書店社長・
元雑誌「世界」編集長)
日時:5月25日(土)13:30~16:00
参加費:2,000 円 学生 500 円
方法:会場 関西セミナーハウスと
Zoom 併用

第3回「中東の平和を考える
アメリカはなぜイランと対立するのか」
シリーズ「戦争と平和」
講師:中西 久枝さん(同志社大
学グローバル・スタディーズ
研究科教授)

日時:6月1日(土)13:30~16:00
参加費:2,000 円 学生 500 円
方法:会場 関西セミナーハウスと
Zoom 併用

第4回「地雷」ではなく、「花」を
一報復ではなく、いのちの連鎖へ」
シリーズ「戦争と平和」

講師:松浦 悟郎さん(カトリック
名古屋教区司教)

日時:7月27日(土)13:30~16:00
参加費:2,000 円学生500 円
方法:会場 関西セミナーハウスと
Zoom 併用

■2024 年度開発教育セミナー
第1回「開発教育入門セミナー
~SDGsを自分ごとに~」
(共催 京都市国際交流協会)
講師:開発教育研究会
日時:6月27日(日)10:00~16:00
参加費:1,000 円

「となりのムスリム・ムスリマ」
「わたしたちのパレスチナ問題」
会場:kokoka 京都市国際交流会館
第2回「パレスチナの平和をつくる~
今起きていることを植民地主義の視点
から考えてみよう~」
講師:岡 真理さん(早稲田大学文
学学術院教授)
日時:7月6日(土)16:00~7日(日)
12:00

参加費:12,000 円(泊食代、宿泊税込)
会場:関西セミナーハウス

■2024 年度修学院フォーラム「いのち」
第1回「咸錫憲(ハム・ソクホン)のシアル
(民衆)思想—『韓国』シリーズ「戦争と平和」
かける非暴力主義」

講師:朴 賢淑(パク・ヒョンス)さん
(大阪女学院大学・短期大学准教授)
日時:8月31日(土)13:30~16:00
参加費:2,000 円 学生 500 円
方法:会場関西セミナーハウスとZoom併用

賛助会費・寄付金報告

2024年1月1日~3月31日
(順不同・敬称略)

◆財団本部 寄付

柳井 一朗
中井 博雅

◆関東活動センター 賛助会費

原 牧人
大川 芙喜子
大鹿 康廣

寄付

日本基督教団市川三本松教会
日本キリスト教団経堂緑岡教会
横浜雙葉中学高等学校
日本キリスト教団壺南坂教会
原 誠
小笠原 公子
林 秀雄
石橋 光朗
中井 博雅
西川 嗣夫
高柳 允子

クリスマス寄付

藤 知佳
岡田 春美
日本基督教団千代田教会
日本キリスト教団須賀川教会

日本キリスト教団浦安教会
飯田 庸子
日本キリスト教団鹿児島
加治屋町教会

神学生プログラム寄付

加藤 真規子
日本聖書神学校
西川 優子
木村 拓己
学校法人西南学院キリ
スト教活動支援課

井口 拓人
川北 かおり
神保 正男
古賀 博
島田 恒
中井 博雅
仲程 愛美
外谷 悦夫
神田 健次
原 誠
神保 信子
日本基督教団洛南教会

◆関西セミナーハウス

寄付
中井 博雅

◆関西セミナーハウス活動センター 賛助会費

日本キリスト教団伊丹教会
西岡 裕芳
西脇 光一
大島 偕美
奈倉 道隆

寄付

(特活)開発教育協会
匿名
榎本 栄次
日本基督教団室町教会
柳井 一朗
武山 泰子

クリスマス寄付

在日大韓基督教会京都教会
日本基督教団西が丘教会
日本基督教団世光教会
南 和子
在日大韓基督教会京都南
部教会
日本基督教団平安教会
日本基督教団京都教会
日本キリスト教団草津教会

以上、感謝を持ってご報告申し上げます。

財団本部 HP 関東活動センターHP



関西セミナーハウスHP KSH 活動センターHP



公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail :info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail :info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail :office@academy-kansai.org